

令和6年度 司書補講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師 にしむら 西村 みとし 美東士

講義概要・授業計画 私の研究成果については、ホームページ (<http://mito3.jp>) で公表しているので、講義中、どんなことでも、質問してほしい。

さて、図書館は言うまでもなく市民の生涯学習の一拠点である。ただし本講義では、他の科目で扱うであろう個人学習支援の側面を除いて、集会事業、相談事業、団体支援、子育て支援、まちづくり、図書館ボランティア育成、職員養成などの図書館による生涯学習関連事業を扱う。

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年中教審答申)では、「学校との連携の強化や、商工労働部局や健康福祉部局等とも連携した個人のスキルアップや就業等の支援、地域課題の解決や地域の先駆的・主体的な取組の支援に資するレファレンス機能の充実など、地域住民のニーズに対応できる情報拠点としての役割の強化」「まちづくりの中核となる地域住民の交流の拠点としての機能の強化」など、「地域住民の情報拠点、交流拠点」としての図書館の機能強化が期待されている。

本講義での具体的な項目としては、次のような問題意識に基づいて検討を進める。その方法としては、自己内対話で、受講仲間とのワークで、そして講師との双方向の対話で明らかにしていく。その要点は「出会いと交流」である。

- (1) 生涯学習・生涯教育とは何か。人々はどのように何を学んでいるか。
- (2) 家庭教育・学校教育によって、人はどのように傷つけられているか。教育はどうすればよいのか。
- (3) 今日の生涯学習振興施策には、何が欠けているか。
- (4) 今日の時代に、教育・社会教育は何ができるのか。
- (5) 社会教育行政はどのように運営されるべきか。
- (6) 自治体の行財政制度と教育関連法規は、人々の生涯学習活動をどう援助しているのか(市立図書館基本計画の事例を含む)。
- (7) 多様な社会教育の内容・方法・形態の実態と公共的意義は何か。
- (8) 学習情報の提供と学習相談のポイントは何か。
- (9) 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携はどうあればよいのか(市立図書館を事例として)。

アドバイス 講義を聴いたり、ワークショップをしたりしながら、各テーマに基づくワークシートを作成する。そのことにより、自己内対話、対他者対話による主体的で深い学びを目指してほしい。あなたの意見や疑問は、双方向システムによって、講義で紹介し、コメントする。

図書館の基礎

講師 あかやま 赤山 みほ みほ

講義概要・授業計画 図書館とは何かについて概説し、これからの図書館の在り方を考える。具体的には、図書館の機能、現状、社会的意義、図書館員の役割、館種別図書館と利用者、図書館の課題と展望等について学ぶ。学修目標としては、図書館に関する基本的な知識を習得し、社会における図書館の位置づけを理解し、今後の図書館のあり方を展望するための考え方を身につけることを目指す。

1. 図書館とは何か
2. 図書館の構成要素と機能
3. 図書館の現状と動向
4. 図書館の社会的意義
5. 図書館の理念
6. 地域社会と図書館
7. 図書館員の役割
8. 公立図書館の役割と利用者のニーズ
9. 大学図書館の役割と利用者のニーズ
10. 学校図書館の役割と利用者のニーズ
11. 国立図書館の役割と利用者のニーズ
12. 出版と図書館
13. 図書館サービスおよび図書館協力
14. 図書館の課題と展望
15. まとめ

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第5版』(樹村房、2024)

アドバイス 身近な図書館が実施している各種サービス、図書館に関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、図書館の理念や関連法規を参照しながら自分の意見を検討できるよう、日頃から情報収集しましょう。

講義概要・授業計画 この講座では、図書館サービスの態様を様々な切り口から取り上げ、図書館サービスの在り方について、そして図書館、図書館員の存在意義について学んでいきたいと思っております。具体的には、図書館サービスの法的な枠組み、その意義と理念・歴史、図書館資料の収集、資料提供サービス、レファレンスサービス、ダイバーシティと図書館サービス、図書館協力・連携、デジタル時代の図書館サービス、図書館サービスの課題と展望を内容とします。映像も用いる予定です。受講生の皆さんは、柔軟な思考で、講義に臨んでいただけたらと思っております。図書館は今や、資料の貸出に特化した伝統的な役割を超越した、知識基盤・知の拠点です。図書館員は、大量の情報の媒介者、ナビゲーターであり、人々の知識欲を受け取り、発展させるプランナーでもあります。社会の変遷を見据え、図書館サービスの新たな役割を追求し、共有することを、講義を通じて目指します。

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第5版』（樹村房、2024）

アドバイス 夏の暑い時期の集中講義です。集中力を持続させるために、受け身で講義を聴くのではなく、自らが参加するという気持ちで臨んでいただければと思います。何事にも問題意識を持ち、前例に捉われることなく、柔軟に、利用者の視点で、図書館サービスを考えてみてください。また、読書などを通して、正しい文を書くことを普段の生活から心がけてください。

レファレンスサービス

講師 竹之内 禎

講義概要・授業計画 インターネットにより誰もが多様な検索をすることが可能となった現在、図書館のレファレンスサービスには「スタンダード」が求められます。この講義では、まず、レファレンスの意義・理論・機能などの基本を押さえます。レファレンスサービスは二つの面があります。利用者の質問に直接に回答する業務と、サービスに備えてあらかじめ知識や情報を蓄積しておく間接的な業務です。前者について、質問の受付から回答に至るプロセスのあり方を分析しながらあるべき姿を考えます。後者については、レファレンスのための情報源の構築、レファレンスの記録とその共有について、実例を見ながら解説します。

教科書 竹之内禎 編著『情報サービス論』第2版（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4）（学文社、2024）

アドバイス 「レファレンス」というと堅苦しいですが、質問と回答というプロセスは日常生活でいくらかでも経験することです。図書館や書店、他の様々なインフォメーション窓口で、自分がわからないことを訪ねる時の気持ちを思い出してください。

レファレンス資料の解題

講師 竹之内 禎

講義概要・授業計画 レファレンスサービスに用いる資料・情報は、従来の冊子体の辞書・事典類や統計資料から電子形態のあらゆる情報に至るまで、目がくらむほど膨大で複雑です。講義では、これらの資料・情報の種類と特徴・用途を確認し、代表的な資料を具体的に採り上げて解説します。そして、これらの資料・情報が図書館の現場で実際にどのように用いられているか、様々な図書館におけるレファレンス事例をあれこれ眺めながら、どうすれば説得力のある回答の根拠とすることができるかについて考えます。

教科書 竹之内禎編著『情報サービス論』第2版（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4）（学文社、2024）

アドバイス 「レファレンス」というと堅苦しいですが、質問と回答というプロセスは日常生活でいくらかでも経験することです。図書館や書店、他の様々なインフォメーション窓口で、自分がわからないことを訪ねる時の気持ちを思い出してください。

講義概要・授業計画 第四次産業革命のコア技術であるビッグデータ、AI、IoT、ブロックチェーン等の到来により、「一億総キュレーター時代」「生成 AI 時代」と言われる今日、図書館のレファレンスサービスやそれを支える検索サービスも変革を余儀なくされている。

また、学術文献は一次情報／二次情報やライセンス／オープン/の別を問わず日々出版・公開され、インターネット空間にはソーシャルメディアやオープンデータが時々刻々と増殖し、その裏側では利用ログやセンサーデータが採取されている。これらのいわゆるビッグデータの中からノイズを排除し、ユーザーに必要と思われる情報を網羅的かつ効率的に収集し選別するには検索エンジンや AI 等の外部脳を巧みに使いこなすスキルが必要となる。

そのためには、最新技術動向を絶えず観察し、率先して試行するといったアーリーアダプター的な特性が求められる。特に、研究やビジネス領域に於いては、そのスピードと目利きの精度が重要な鍵となる。その意味でも、今こそインフォプロとして図書館員が様々な場面で活躍できるチャンスと捉えることができる。但し、昨今の生成 AI (ChatGPT 等) の進化により検索の概念が根底から覆されつつあり、図書館員の仕事も脅威にさらされている。

本講義の前半では、情報検索のしくみや情報資源・情報サービスについて解説すると共に既存の OPAC やディスカバリーサービス等の図書館の検索サービスの課題やアップデートのポイントについて概説する。続いて後半では、これからの図書館および図書館員はどのような情報技術を活用し、どのような検索サービスを創造し、サステナブルに利用者に提供しつづけていくべきかについて考察する。

教科書・参考書 購入の必要はありません。以下は一部です。

- ・一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／吉井隆明・森美由紀 著『検索スキルをみがく 検索技術者検定 3 級 公式テキスト』（樹村房、2018）
- ・市古みどり、上岡真紀子・保坂睦 共著『情報検索入門』（慶應義塾大学出版会、2014）
- ・飯野勝則 著『図書館を変える！ウェブスケールディスカバリー入門』（ネットアドバンス、2016）
- ・入矢玲子 著『プロ司書の検索術』（日外アソシエーツ、2020）
- ・小島原典子・河合富士美 編『PICO から始める医学文献検索のすすめ』（南江堂、2019）
- ・田中志 著『情報を活用して、思考と行動を進化させる』（クロスメディア・パブリッシング、2021）
- ・小林昌樹 著『調べる技術：国会図書館秘伝のレファレンス・チップス』（皓星社、2022）

アドバイス 本講義では、キーワード検索、フルテキスト（全文）検索、横断検索、統合検索、ファセットなど情報検索に関する知識を習得し、個人演習では実際にいくつかのデータベースを検索し、「ブロックチェーン×カタログ」や「生成 AI (ChatGPT 等) ×レファレンサー」など最新の情報技術と図書館員のスキルを融合してセマンティックな情報検索サービスを模索します。ラフスケッチで構いませんので、事前にアイデアを考えてきてください。

図書館の資料

講義概要・授業計画 「司書」とは「書を司る」と書きますが、「書」を「資料」に置き換えた場合、「司書」とは資料を司るひと、と言い換えることができます。では、「資料」とは何でしょうか。「司る」ためには、まずは「資料」とは何であるかをしっかり理解しなければなりません。「資料」というものは時代とともに変化するものですが、特にコロナ禍は、紙媒体が中心であった図書館資料における電子媒体資料やリモート資料へのニーズを一気に顕在化させました。「資料」の知識のアップデートが必要です。

この講座では、図書館の資料全般について、その種類、歴史、出版と流通、選択と蔵書構築、保存管理と利用方法等について学びます。

教科書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論 三訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）（日本図書館協会、2023）このテキストにそって進めます。できれば購入が望ましいですが、必須ではありません。

アドバイス ぜひ、お近くの図書館に行き一利用者として様々な資料に触れてみてください。具体的な資料のイメージがあればあるほど、実践的な学修の助けとなるでしょう。

講義概要・授業計画 図書館の仕事は、外から見ると貸出・返却やレファレンスのような対人サービス（直接サービス／パブリック・サービス）ばかり注目されがちですが、利用者に適切な資料や情報を提供するには、情報資源（本や雑誌、CDやDVD、電子資料など）を収集し、整理しておく必要があります。

無数にある情報資源の中から利用者が必要なもの呼び出せるように「データを作成」し（目録記述）、それらを適切に配置・提示するために「内容に応じて分類」する（主題分析）という作業は今も昔も図書館の重要な任務のひとつです。これらの作業は直接サービスに対して「間接サービス／テクニカル・サービス」と呼ばれます。

この講義ではこれらの意味と必要性、歴史的経緯、現代の図書館における状況および近い将来予定・予想されることについて取り扱います。

教科書 那須雅熙・蟹瀬智弘 著『情報資源組織論及び演習 第3版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2020）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）

日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）

日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理業務は、利用者の目からは見えづらい「縁の下の力持ち」の部分ですが、図書であれ電子情報源であれ、適切な目録と分類がなければ情報を探すことはできません。なるべく身近な話題や新しい話題、珍しい資料の紹介なども交えていくので、どうぞ整理業務にも関心を持ってください。

資料の整理演習

講義概要・授業計画 整理業務の重要性は「資料の整理」で講義する通りです。この演習では「資料の整理」の講義を踏まえて、業務の実際にあたってどのように整理するか、(1) 日本目録規則（NCR）(2) 日本十進分類法（NDC）(3) 基本件名標目表（BSH）といった各種のツール（道具）の使用方法を中心に、初歩的・基本的な実践能力を身につけます。

教科書 那須雅熙・蟹瀬智弘 著『情報資源組織論及び演習 第3版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2020）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）

日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）

日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理演習は小難しい用語が多く、膨大な規則や表を前にすると身構えてしまう人が多いですが、実は基本的な使い方さえおさえてしまえば後はツールを参照しながらの作業です。難しいことと考えず、肩の力を抜いて、《知識の宇宙》を散歩するような気持ちでいきましょう。

講義概要・授業計画 児童サービスは、人が生涯にわたって本に親しむことができるよう子ども（児童）と本を結ぶ図書館サービスの一つです。この講義では公共図書館ならびに学校図書館における子どもを対象とする読書支援サービスを中心に講義を進めます。

近年、図書館の児童サービスは、DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション）化が進み、児童サービスの分野でも新しい試みがさまざまになされています。

しかし、児童サービスの本質および使命に変わりはなく、今後とも子どもと本を結ぶ活動は継続されなければなりません。そこで、児童サービスの基礎知識としてブックスタートからヤングアダルトサービスに至るまで、発達段階に応じた読書支援活動について解説します。そのうえでデジタル化による児童サービスの変化も事例をふまえて説明します。

そこで、本講義では、前半は児童サービスの意義、児童室の運営や業務、児童図書や児童サービスと児童図書館の歴史、児童図書館員の業務や児童向け図書資料、選書基準、児童サービス担当者の業務等の基礎知識について講義します。さらに、事例をもとにデジタル時代の児童サービスの広がりについて説明します。

後半は読書支援活動のうち「読み聞かせ」は演習を行い、ブックトークはブックトークシナリオの作成を行い、読書のアニメーションは実演します。それぞれの方法を説明し、演習によって技術の習得をめざしていただきます。

なお、本講義で「児童」とは、児童福祉法第4条、児童の権利条約第1条や『IFLA 児童図書館サービスのためのガイドライン0歳から18歳』に基づき、0歳から18歳までの年齢にある人として扱います。

1. 児童サービスの意義と役割および児童観の変遷
2. 児童サービスと児童図書館の歴史・児童図書館員の業務
3. 児童資料および読書支援サービスの方法（ブックスタート含む）
4. デジタル化に対応した児童サービスのあれこれ
5. 読み聞かせ演習
6. ストーリーテリング（おはなし）体験・アニメーション体験
7. ヤングアダルトサービスおよび特別な支援を必要とする児童のためのサービス
8. 読書のバリアフリーをめざして（多文化共生・読書療法等児童サービスの今後）

教科書 西巻悦子・小田孝子・工藤邦彦 著『デジタル時代の児童サービス』（近代科学社、2024）

アドバイス 講義は教科書にそって行います。読み聞かせ演習の資料はご自分でお気に入りの絵本（サイズはA3用紙大かそれ以上のものが望ましい）をご用意いただき、2日目の演習当日にお持ちください。また、聖徳大学川並図書館の児童図書室「世界の絵本コレクション」を是非、ご覧ください。児童資料の選書の参考になります。

図書館特講

講師 のなか ひろふみ
野中 博史

講義概要・授業計画 この講義はメディア・リテラシーの修得を目的とします。メディア・リテラシー(media literacy)という言葉の概念については、「情報を評価・識別する能力」、「情報を処理する能力」、「情報を発信する能力」などといった解釈がされていますが、この授業では「情報を評価・識別する能力」という意味のメディア・リテラシーについて、以下の順に説明・考察していきます。

1. 表現の自由の意味と意義
2. 報道の使命とニュースの価値判断
3. ニュースの機能と効果
4. 世論形成の仕組み
5. 報道と人権①名誉棄損と免責
6. 報道と人権②プライバシーの侵害と免責
7. 報道と人権③人権問題をめぐる判例の考察
8. 報道と人権④差別用語・ヘイトスピーチ

参考書 吉見俊哉 著『メディア文化論』（有斐閣アルマ、2012）

アドバイス 夏期講習は肉体的にも、精神的にも消耗戦です。しかし、成し遂げたものにしか分からない満足感と充実感、そして何より知的財産が得られます。そのような知的財産の伝播と社会的利益との関係を考察しましょう。